



研修報告

「初めてのオンライン体験会」

日時: 令和4年2月25日(木) 1部10:30~11:30 2部13:30~14:30

場所: 須磨区医師会館メインホール

参加者: 9名(あんしんすこやかセンター職員・ケアマネジャー)

内容: オンライン教室では、参加者がパソコンにてZOOMの操作を行いながら様々な体験を実施しました。ZOOMのインストールから、入退室の方法、ZOOMの各種機能の体験(ミュート、ビデオ操作、チャット機能、挙手機能等)、ホストと参加者の違い及びホスト側の画面・機能について、また今後の医療介護現場でのオンラインの活用と展望について話し合いました。



利用していない期間が長かったり、ZOOMがバージョンアップされて変化があったりすると、利用しにくいと感じることがあると思います。今後も、サポートセンターでのオンライン研修や会議時に、操作等でご不明点がありましたらいつでもご相談いただけたらと思います。

令和3年度多職種連携検討会

「コロナ禍での急な退院から看取りまで多職種で支援できた事例」

日時: 令和4年3月17日(木) 17:00~19:00 オンライン(ZOOM) 参加者: 28名

パネリスト: つばめクリニック

医師 三上 隆一氏

こすもすケアプランセンター

ケアマネジャー

川畑 真弓氏(事例提供者)

あかり訪問看護ステーション

看護師

安田 鈴枝氏

ソラスト新長田

介護福祉士

岩本 順香氏

デイサービスセンターいたやど

生活相談員

中來田 浩二氏



ケアマネジャーの川畑様から、事例のご紹介を頂いたあと、パネリストの皆様からは、①本人、家族への支援内容 ②他職種と連携が取れている・取れたと感じた具体的なエピソードと考えられる要因 ③本人家族の思いをどのように傾聴し、多職種で共有したか(退院時~看取りにかけて)について、専門職の立場から教えて頂きました。

今回の事例はコロナ禍で急な退院が決まり、看取りまで約1か月ほどしかない状況でした。退院時の担当者会議においては、医師も含めた多職種が自宅に集まり、本人・家族の状況や思いを理解した事。また連携ツールとして、家族も含めた多職種間で連絡ノートを利用しており、ノートには医療用語をなるべく使用せずに記入していた事。また、ご本人が好きであったデイサービスの利用時には、訪問看護師が褥瘡処置などをデイサービスにも伝えていた事など、在宅療養が継続できるように、家族も含めた多職種間の情報共有が密で、チームで対応できるようわかりやすい言葉で実施されていた状況を教えて頂きました。

また、ACPIについては、看取り期における状態変化にともない、家族の気持ちが大きく揺れ動く状況にある中、医師より繰り返し実施されていた事、看護師そしてケアマネにその状況が共有され、支援者全員で家族の気持ちに寄り添われている状況がありました。

オンラインでのグループワーク(ブレイクアウトルーム)では多職種で今回の事例の感想等を話し合うことで、より今回の事例を深めて考えることができました。

【アンケートより】

「支援に関わった担当者全員の熱意が伝わってきた」「とてもよい連携ケースを知ることができた」「多職種連携の大切さを改めて認識することができた」



リレー式コラム

認知症初期集中支援チーム(オレンジチーム)と多職種連携

神戸在宅医療・介護推進財団

認知症対策課 課長 小園弘子さん

認知症初期集中支援チームの役割は、これまでの認知症ケアは危機が発生してから的事後的な対応になっていたのを、事前に危機の回避を行い、住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、多職種との連携を円滑に行い、早期に適宜適切な医療・介護に繋いでいくことです。

支援の対象者は40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で治療の中断や、介護の中断がある人。BPSDが顕著なために対応に苦慮している方になります。

初期集中の意味ですが、認知症のステージとしての初期だけでなく、認知症の人へのかかわりの初期（ファーストタッチ）という意味があります。集中とは概ね6ヶ月を目安に集中的なかかわりを重ねて適切な医療や介護につなげていくという意味を持っています。

平成29年に神戸市からこの事業を財団に委託され、現在兵庫区に拠点を置いています。専従のチーム員11人が在籍しており、あんしんすこやかセンター（以下センター）や訪問看護ステーション・ケアマネジャー・MSW等の経験を有している専門職（保健師・看護師・精神保健福祉士・社会福祉士・作業療法士・介護支援専門員など）で構成しています。

全相談の8割をセンターから受けています。



《事例》

70代 男性 独居 キーパーソンなし 支援期間9ヵ月

家賃の支払いが口座引き落としになっていることが理解できず不動産会社に、「勝手に引き落とされている！」と立腹し騒ぐため困っている。かかわりに拒否があるとセンターよりチームに相談が入る。

訪問すると、自宅内はゴミ屋敷で、排泄物を室内に溜めておりかなりの異臭がしていた。また公共料金の滞納がある事がわかる。当初訪問には拒否的態度がみられたが、集中的に訪問を重ねていくと困りごとを口にするなど受け入れの態度がみられた。

関係者やチーム員医師が集まりチーム員会議を開催し支援方針を決定する。支援方針に沿って、金融機関への手続きや認知症神戸モデルを利用し鑑別診断の受診同行・生活保護についての相談のための区役所同行・介護サービスへの引継ぎなど行う。混合型の認知症と診断され、要介護1の認定が出る。

サービスが導入され生活の基盤が整ったことでチームの支援は終了となる。

関係性が築けた頃、ご本人より「あんたらが来てくれたら、どんぶり2杯のご飯を食べたような気になる」と嬉しい言葉をいただきました。この言葉は支援者がご本人とのかかわりに急がず困りごとに注目しそれぞれの役割を認識し連携できた結果、人を受け入れることの安心感を伝えてくれています。

今後もセンター・介護サービス事業所・社協・警察・金融機関・地域住民・医療機関など多職種との連携を行い、地域包括ケアを推進していきたいと思っています。

認知症高齢者の方が地域で暮らし続けることができるよう認知症施策の社会資源である認知症初期集中支援チームをご利用していただきたいと思います。



須磨区の特化型施設のご紹介



神戸医療センター

皮膚・排泄ケア認定看護師

都築真奈美さん

皮膚・排泄ケア認定看護師とは

W(創傷)O(オストミー)C(失禁)の3領域に関する知識や技術を学び資格を取得した看護師です。ケアの実践だけでなく、患者や家族、また看護師への指導と相談の役割もあります。それぞれの頭文字をとり、『WOCナース』と呼ばれています。

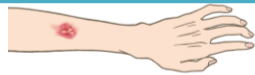
具体的な活動内容

W(創傷)

・褥瘡やスキン-テアなどの処置、予防ケアの実施

必要に応じて褥瘡対策チーム(医師、薬剤師、栄養士、理学療法士、検査技師、看護師で構成)で介入し他職種で治療やケアについて検討

・瘻孔ケア



O(オストミー)

・人工肛門のケア(ストーマ外来を開設しており、入院中だけでなく継続した支援を実施)

C(失禁)

・失禁関連皮膚炎のケアや予防

・おむつの正しい選択・使用方法などの指導



※褥瘡と人工肛門については、退院前・後訪問や認定看護師同行訪問なども行っています。

事例紹介① ～在宅でのポジショニング～

踵に黒色壊死を伴う褥瘡を持つ患者さんでした。脳梗塞の既往があり、誤嚥性肺炎を繰り返して入院していました。主な介護者は奥様でした。退院後訪問を実施し、自宅にある座布団や毛布、クッションなどを使用したポジショニングと一緒に検討し、ギャジアップ時の仙骨部の体圧を約60mmHgから約20mmHgまで低下させることができました。また、ビニール袋を使用した圧抜きなどの具体的な方法もお伝えすることで、新規褥瘡発生を防ぎ、踵の褥瘡も改善に向かうことができました。



事例紹介② ～臀部に繰り返す褥瘡の原因追及～

有料老人ホームに入所されており、心不全・誤嚥性肺炎を繰り返して入院されている患者さんでした。脳梗塞の既往があり、車椅子への乗降は全介助でした。入院の度、臀部に馬蹄型の褥瘡が繰り返し発生していました。褥瘡対策チームで介入し、褥瘡の形状などから車椅子乗車に関連している可能性が高いと推測しました。有料老人ホームのスタッフに車椅子乗車などについて情報収集をしたところ、ズボンを持って引き上げ乗車していることや長時間同一体位であることが分かりました。そこで、移動介助方法や乗車中の圧抜き・ポジショニングについて検討し指導した結果、褥瘡発生はなくなりました。



褥瘡の多くは、正しい知識を持ち、適切なケアを行うことで予防できます。そのため、病院内のスタッフだけでなく、患者自身やその家族、地域の介護や医療に関わる方などそれぞれの知識や技術の向上が大切であると考えます。退院前・後訪問、訪問看護師同行訪問の実施や出前研修、オンラインツールなどを活用した研修の実施など、地域での活動も積極的に行いたいと考えています。

サポートセンターからのお知らせ

第16回在宅医療講座

新型コロナウイルス感染症陽性疑いや陽性者に対する訪問介護の実践
～訪問介護事業所からの報告～

日時：令和4年4月21日(木) 16:30~17:30

場所：オンライン(ZOOM) 50名 須磨区医師会館メインホール10名

※神戸市医療介護サポートセンターのホームページでもご案内しています。

令和4年度も様々な研修を予定しています。お時間のある時にはご参加いただきますようお願いいたします。

第16回在宅医療講座

新型コロナウイルス感染症陽性疑いや陽性者に対する訪問介護の実践

～訪問介護事業所からの報告～

申込フォーム 第16回在宅医療講座

申し込み 第16回在宅医療講座

申し込み 第16回在宅医療講座

申し込み 第16回在宅医療講座

申し込み 第16回在宅医療講座

申し込み 第16回在宅医療講座

申し込み 第16回在宅医療講座